

1（３）他分野との連携・融合による活動

ボランティア講座

令和元年 9 月 12 日（木）、12 月 3 日（火）

於：砺波郷土資料館、砺波民具展示室

○ボランティア講座実施内容

「重要有形民俗文化財「砺波の生活・生産用具」を広く周知し、砺波民具展示室を親しみやすく、利用者に身近な博物館にするにはどうしたら良いか？」をテーマに、2 回にわたりボランティア講座を行った。砺波市観光ボランティア、般若老人クラブ連合会、延 10 人の参加。

●1 回目（9 月 12 日（木））

「ボランティアの意義」を説明と協力依頼。

砺波民具展示室は、現在も使用中の小学校の 3 階にあり、子ども達のふるさと学習、郷土学習に利用するに最適な環境にある。また、令和元年 11 月から国道 359 号線東バイパスが全面開通することから、立地的にも好条件の場所となり観光面からのアプローチも考えられる。砺波民具展示室の環境整備工事令和 2 年には完成。

「今から市民に周知し、まずはこのような展示室があることを知ってもらいたい。砺波の先人達の暮らしぶりを知ることで、郷土愛を育み、自信を持ってもらいたい。」

●2 回目（12 月 3 日（火））

前回に引き続き、どうしたら「砺波民具展示室を広く周知出来るか、観光と結び付けれるか」、具体的に意見を出してもらった。

①砺波民具展示室について・・・民具とは何か、砺波民具展示室・重有民についての説明

②砺波民具展示室の見学・・・20 分間

A) 将来的な目標・・・まずは多くの方に砺波民具展示室の存在を知っていただきたい。

・文化・観光ゾーンとして、庄東地区の観光ルートに入りたい。

B) 課題・・・見せ方、応対の仕方、宣伝の仕方、来館者が自ら楽しむ仕掛けの工夫を、多くの人の意見を取り入れながら考えていきたい。

C) 意見

①展示室までたどり着くには「⇒」や「砺波民具展示室駐車場」などの看板が国道のあたりから、学校の敷地の内外に沢山必要だ。

②観光パンフレットにしっかり書いてもらうこと！ほかの北陸 3 県で同じように民具を扱っているところはどこか？そこを参考にしたい。

③物の量が多すぎて、どうすればいいかわからない。ゲンナリ感がある。資料館の方は全部見せなければならないと思われるけど、全部見なければならないと思うとつらい。何かテーマを持たせて見させてはどうか？

④自分などはこれらの道具がどのように使われていたかは知らない。使っている様子がわかる絵なり、写真があったら良い。表示が少なすぎる。ジオラマや人形などをもっと設ける。下に設置するのが無理ならば、天井からつり下げること良い。

⑤市民にどのように見せるか？→テーマの場所を作る。バスなどで回遊させる。

⑥レプリカが必要。観光客はそんなに長く同じ場所にいない。沢山の民具の中の「これだけは見せたい」ものはどれか。人は「感動」を求めて旅をするので感動を作り出すことが必要。興味が育つにも段階がある。モノにもストーリーがあるように、来る人にもストーリーが必要。